
2014年 International Youth Convocation

2014年8月4日～10日

インド・チェンナイ

会場

HINDUSTAN

UNIVERSITY

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

YMCA サービス・ユース事業

2014年 International Youth Convocation Y's Men International

報告書 目次

P1	・目次&参加ユース一覧		
P2	・巻頭挨拶	AYR	沖 麻美
P3	・挨拶	西日本区理事	松本 武彦
P4	・挨拶	西日本区YMCAサービス・ユース事業主任	藤本 義隆
P5	・ユースコンボケーション全日程表（セッション説明）		
P6	・毎日の生活について ・セッションについて報告書		
P7	・セッション1：リーダーシップについて		
P8	・セッション2：コミュニケーションについて		
P9	・セッション3：YMIとYMCAについて		
P10	・AYR job description		
P11	・個人感想～IYC体験記～		
P12	・『学びの場』沖麻美さん		
P13	・『MY LAST IYC!!』山田麻里さん		
P14・15	・『置かれた場所で咲きなさい』二之方良枝さん		
P16	・『私だけのIYC』吉村尚馬さん		
P17	・2015 AYC in 京都アピール		

参加ユース一覧（4名）

名前	所属	推薦クラブ	過去の参加
沖 麻美	AYR: 広島 YMCA 職員	西中国部 (広島クラブ)	AYC: 1回
山田 麻里	姫路 Y3	瀬戸山陰部 (姫路グローバルクラブ)	AYC: 2回 IYC: 1回
二之方 良枝	学生 YMCA リーダー	西中国部 (広島クラブ)	初参加
吉村 尚馬	ワイズコメット	中西部 (大阪西クラブ)	初参加

「はじめに」

広島 YMCA 専門学校職員

AYR 沖 麻実

今回 IYC の開催地であるインドのチェンナイ(旧マドラス)は、インドの中でも有名な大都市で知られている場所です。8月4日(月)から8月10(日)にかけて、世界26カ国から約84名の参加者ユースたちと寝食を共にしながら、文化や価値観、言語も異なった環境で、笑いあり、涙ありの濃厚な一週間を過ごしました。IYC でどのようなプログラムが実施され、参加者メンバーが各々にどんな学びを得てきたのか、この報告書を通じて、ワイズメンズクラブ、YMCA スタッフの皆様へご報告させていただきたいと思います。そしてコンボケーションを知らない、参加したことのないユースの方たちが、少しでもこのプログラムに興味を持っていただくことに繋がればと思っています。私たちの想いの詰まった IYC 体験記をぜひ楽しんで読んで頂ければ幸いです。



このプログラムは、15歳から29歳までのユースを対象に参加資格が与えられます。毎年送り出されたユースの良き成長の変化の様子を見て、実際にコンボケーションで、彼らはどんなことをしているのかと、少なからず興味を持たれている方もいると思います。私は昨年フィリピンのマニラで開催されたユースコンボケーション(AYC)が、初めての参加でした。そこでは、アジアのユースたちが一ヶ所に集うわけですが、今回参加した IYC は、同じコンボケーションでもプログラムの規模や雰囲気も昨年のものとは全く異なっていて、プログラムの理解をさらに深めるとてもいい機会となりました。実際、私自身コンボケーションの理解が十分でないところからの参加であり、初めて経験させていただくことばかりです。それが色んなご縁を経て、AYC でアジアの地域ユース代表(AYR)に選任され、こうして2つのコンボケーションを体験させていただきました。コンボケーションの一番の魅力は、人生を変えるような素晴らしい仲間たちとの出逢いがあることです。国際が注目している問題に対して、自らアクションを起こしたいと、ハングリー精神とパッションを持った世界各国のユースたちとの交流は大変貴重な経験だと思います。だからこそ、より多くのユースたちに、同じように素晴らしい体験をしていただきたいと願っています。これまでのコンボケーションを通じて生まれた多くの方との絆を大切にしていきたいながら、かけがえのないユースの仲間たち、そしてホストコミッティの皆様と共に力を合わせ、来年の京都 AYC への成功に繋げていきたいです。

ご 挨拶

西日本区理事
松本 武彦

本年8月、インド・チェンナイで開催されたIYC（インターナショナル・ユースコンボケーション）に、西日本区からは4名のユース、沖麻実さん、二之方良枝さん、山田麻里さん、吉村尚馬さんが参加されました。

沖麻実さんは、現在、アジア地域ユース代表として活躍しておられます。

4人のユースたちは、ご自分がこのIYCで体験したこと、感じたことを本書において例を挙げながら具体的に述べ報告して下さっています。

本書における彼らの報告から、環境・文化が異なる世界各国のユースたちが集まって、それぞれの文化を説明し合い、与えられたテーマに基づいてディスカッションする、なかには乏しい英語力でありながら勇気を奮って議論に参加する、押され勝ちな議論を押し返すなどする、その中で、いろいろなものの見方を体験し、自分自身の考え方の幅を広げてゆくなどして、ユースたちが自分自身を大きく成長させていることが理解できます。

彼らは、時には辛いこともあったが、この素晴らしい体験を他の若者たちにも経験させたいとも述べています。

私たちワイズメンは、私たちが支援しているユースコンボケーションがこのような素晴らしい機会を若者たちに与えていることに自信を持ちましょう。

西日本区は、来年夏、京都においてアジア地域大会をホストします。そのおりのAYC（アジア・ユース・コンボケーション）には西日本区のすべての部から沢山のユースたちを参加させるようにしましょう。

担当主任として

西日本区 YMCA サービス・ユース事業主任
藤本義隆（阿蘇クラブ）

はじめまして、西日本区のユースコンボケーションを担当いたします、藤本義隆です。

今回、2014年8月開催のインターナショナル・ユース・コンボケーション（IYC）を支援するにあたり、直前の正野忠之ワイズ、下村明子ワイズをはじめ、多くのワイズメンの協力がありました。ここでお礼申し上げます。また、今回西日本区から参加のユースは、沖さん、二之方さん、山田さん、吉村さんの4名となりました。ご推薦いただきありがとうございます。

最初に IYC 出発の1ヶ月前にオリエンテーションを行いました。私がある時感じた事は、「参加ユース全員が IYC に対して前向きで、とても楽しみにしているなあ」と感じました。これは、私からするとすごい事でした。私も現在30歳でワイズでは、若手の方です。私は、YMCA リーダーOBでリーダー時代に熊本 YMCA から“インドスタディツアー”へ参加しないかと誘われたことがありましたが、その時は、躊躇してしまい学業を理由に断ったことがありました。今思えば、参加していればと後悔があります。だから、世界へ羽ばたこうとしている彼ら、彼女らを見ていると、たくましく素晴らしいと思いました。

そして、帰国後に4名から報告書をいただきました。その内容を一言で表すと、二之方さんの報告書にある「飛躍」と言う言葉がぴったりだと感じました。4名それぞれが何かを感じ、人として一回りも二回りも成長し、自分を見つめ、考え方や視野を広げ、成長していると感じ取れました。この報告書の中で印象的だったのは、沖さんが「最高の学びの場」とあらわしています。ユースコンボケーションは、そんな経験が出来る場所なのです。そして全員が参加して良かった、と言っています。私たちも支援して良かったと感じましたし、これからも多くのユースをユースコンボケーションへ送り出したいと思いました。

YMCA 同盟の柱の一つに「ユース・エンパワーメント」という言葉があります、APAY（アジア太平洋同盟）の山田総主事は～若者がその力を発揮するきっかけを作る働き～とされています。各クラブで行われているユース支援こそが、そのきっかけになり、ユースコンボケーションもその一つのきっかけだと思います。

次は、AYC in 京都、日本での開催は、巡ってもないチャンスです。西日本区では、今までは各部より数名と言っていたのですが、今回は各クラブから1名くらいの気持ちでの参加をお待ちしたいと思います。AYRの沖さんをはじめ、参加した、4名の他にも前回のAYC参加ユースが中心となってAYC in 京都を盛り上げていってくれると思います。この報告書を見て頂くと、どんな経験ができるか感じ取れると思います。

最後にワイズメンの皆様にはお願いです。コメントや身近のユースに声をかけ、ユースコンボケーションの素晴らしさを伝え、お誘いください。若者にきっかけを与えてください。

ユースコンボケーション全日程

	朝	午前	昼	午後	夕方	夜
一日目	到着・受付 サインアップ		昼食	オープニングセレモニー スポーツ(バスケットボール)		夕食
二日目	モーニング スポーツ 朝食	セッション1	ICM 合流・交流	セッション2 プロフィール作成		夕食 DJナイト
三日目	朝食	セッション3	朝食	セッション4		夕食
四日目	朝食	地域学校訪問		オープニングセレモニー		夕食
五日目	朝食	チェンナイ YMCA 訪問 観光・ショッピング		国際ユース代表選挙		カルチャー ナイト
六日目	朝食	セッション5	昼食	セッション6	IP ボールパーティー	
七日目	IC,IYC 合同閉会式			流れ解散		

※実際のスケジュールは一部変更あり。

1. セッション1 リーダーシップについて
2. セッション2 コミュニケーションについて
3. セッション3 YMI と YICA について
4. セッション4 ディベート
5. セッション5 アクションプランについて
6. セッション6 エリアミーティング



毎日の生活について

〈食事〉

IYC 期間中の食事は、小学校訪問時のお昼のお弁当を除き、すべてビュッフェスタイルで行われた。朝食、昼食、夕食のすべてにカレーが登場し、参加者たちはみんな、「カレーの国・インド」独特のスパイシーでホットな料理を楽しんでいた。

ほとんどすべての食事の場で、特に席は決められておらず、食事の時間を通じて他の参加者たちと自由にコミュニケーションをとることができた。慣れないスパイシーな食事に奮闘しながらする楽しいおしゃべりを通じ、参加者たちの仲はより深まっていったと感じている。

〈宿泊施設〉

活動拠点とされていた **Hindustan University** の向かいにあるホテルに参加者全員で滞在していた。1部屋につき、到着時間が同じメンバー同士が3人ずつ振り分けられ、期間中寝起きを共にした。

ホテルのロビーには **Wi-Fi** がつながっており、夜になると狭い空間の中で電波を求める参加者たちでごった返していた。

部屋には、エアコンや、蚊よけのファン、シャワー、トイレ、洗面台など、一通りのものがそろっていたが、かなりの頻度で停電と断水が起きた。初めは驚いたが、インドではよくあることのように、停電は大学内や、**Trade Center** でも起こったため、最終日にはすっかり慣れてしまっていた。

ホテルと大学の間の道路には、牛が寝ており、牛を大切にしているヒンドゥー教の文化を感じることができ、とても面白かった。

〈気候〉

開催地のチェンナイは南インドに位置し、赤道に近いということもあり、耐えられないような暑さを覚悟しての参加だった。しかし、期間中は曇りの日が多かったためか、ひどい暑さを感じることはほとんどなく、日本の夏とあまり変わらないように感じた。反対に、室内はかなり冷房が効いており、そのあまりの寒さから、長袖の服を着ていたほどだった。

Excursion の際に、長時間激しいスコールに見舞われた。文字通り、バケツの水をひっくり返したような大雨により、道は一瞬で大洪水になり、少し外を歩いただけで、傘を持っていようがなかろうが、びしょ濡れになってしまった。チェンナイでは9月から12月にかけて雨季が訪れるそうで、期間外ではあったものの、日本の梅雨とは違う雨季の天気を体験することができた。

セッション1：リーダーシップについて

最初のセッションでは「リーダーシップとは何か？」

ということについて、各グループに別れ話し合いを行った。わたしのグループではまず、ファシリテーターから「身近にいるリーダー像は誰か？」という質問が問いかけられ、ファシリテーターの名前が出たり、友人の名前が出たり、父親の名前が出たりと、人によって様々な返答があった。

その人たちの名前が出された理由に、“憧れ”という1つの共通点があることに気が付いた。このことからリーダーは尊敬され、また憧れの存在であると考えた。どのような人がどのように尊敬されるかは、それぞれ人の感じ方によって異なるが、グローバルな世界で活躍するリーダーたちも、また同様に人々にとって“尊敬できる、憧れの存在”なのであろう。

次に「ボスとリーダーの違い」について話し合った。双方の違いを述べることに對し、メンバーはさすがに苦戦していたようだが、ボスは“身分的に上の人になるもの”一方リーダーは“選ばれてなるもの”、という意見が出た。この考え方にも納得は出来るが、わたしは明確な意見を持っていた。それは、ボスは“命令を下して人を使う存在”であり、リーダーは“人を率いて働く存在”である。ボスは人を使うので自分は働かない、言い換えればその人に適した仕事を与えることができる人になるもので、リーダーとは現場において率先して物事に取り組み、その背中に人がついていくという形をとるものとする。しかし、私はこの意見を英語で伝えることができず、どうすれば伝わるかを考えた挙句、絵を描いて見せることにより、グループの皆に納得してもらえることができた。

このセッションでの話し合いを振り返る中、「ボスが現場においてリーダーを任命し、リーダーは人を率いて物事に取り組む」という考えが、テーマに対する自分なりの最高の答えではないかと思う。ボスとリーダーは同じ枠ではなく、全く違った役職であり、それは同時に存在しているものである。そういう解釈もできるのではないか。

このように客観的に振り返ることで、また違った考えが出てくる。

IYCのセッションにふさわしい内容の深い話し合いを行うことができた。



セッション2：コミュニケーションについて

「今後の Youth のために私たちは何ができること」を考えることを念頭に、Youth 同士ではどのようなコミュニケーションが望ましいのかに焦点を当ててディスカッションした。とはいえ、よくお題が掴めないままいきなり議論をすることは困難である。従って国際ユース代表(I Y R)のステファンと元国際ユース代表のシャナにより、一度悪いコミュニケーションの例が皆の前で実演され、それによって起こる失敗などが分かり易く解説された。ラップのリズム調で“2 4 6 8,how do you communicate?”と繰り返されていたのは、今でも脳裏から離れない。

この実演を踏まえた上で、

- ① 最も重要なのは情報発信者か受信者か
- ② コミュニケーションにおける障害とはなにか
- ③ 人前でのプレゼンを上手くするためには
- ④ Y'sにとってコミュニケーションの重要性とは

の順番でディスカッションが進められた。言語の壁 (social contents:ある言葉が他国では異なる意味を持つことがある) やメディアによる誤解、興味関心を示さない聞き手の姿勢など、コミュニケーションの危険性がある一方で、しっかりと相手の目を見て話すことや再度伝えたいことをフィードバックやリマインドする (再度認識させる) ことが良いコミュニケーションには欠かせないとの意見が出た。

又、プレゼン発表の際には自分が伝えたいことを明確に理解した上で、伝え方・発表するための十分な下調べが重要だとされた。ここで一つ工夫を加えるなら、自分が見慣れた人の顔を見つつ好物を考えながらプレゼンすると大分気持ちが楽になるそうだ。

さて、ディスカッションでは列挙される様に意見が出され続けたが、私はある一つの意見に耳を寄せた。「多くの情報受信者 (聞き手) は勘違いしていて、待つ姿勢だけで自ら情報を聞きに行く姿勢が欠落している。盲点ではあるが、聞き手の積極性が良きコミュニケーション (又は良き情報伝達網) に繋がる」と。

正しくその通りだと思った。Y's 連絡網も、毎回 IYR・AYR・Youth インターンが何を考えていて、現在の動向はどうなっているのかはほとんど教えてくれない。確かに彼らのコミュニケーションのミスとも言えるかもしれないが、一般メンバーである我々が自分から情報をもらいに行く姿勢を見せるだけで、団体としてのコンセンサスが取りやすくなるのではないかと思う。知りたければ、まるで団体運営に参加するように、全員が積極的に質問する。私はこの姿勢を肝に銘じていきたい。

セッション3：YMI と YMCA について

このセッションではまず、全体でディスカッションテーマである YMI と YMCA の関係についてのプレゼンテーションを聞き、その後、ホームグループに分かれてディスカッションを行った。プレゼンテーションでは YMI と YMCA の歴史や概略の説明、その 2 つの関係性などについて述べられた。

世界中には約 1600 のワイズメンズクラブと 11000 以上の YMCA の拠点があり、その関わりは国や地域によって多様な差がある。グループに分かれて行われたディスカッションでは自分の地域の YMI と YMCA の関係について語ることで、その差を実感した。その後 YMI と YMCA が連携するメリット・デメリットについて話し合い模造紙にまとめた。

その中では、

《メリット》

- ・ YMCA は人材を、YMI は資金を援助できる。
- ・ YMI は YMCA という世界規模の認知度が高く信頼度のある団体を支援すると言うことで、人員や募金を集めやすい。

《デメリット》

- ・ 時間の経過と共に YMI と YMCA の運営方法が変わり、関係が悪化する可能性がある。
- ・ 互いのルールの違いによって亀裂が生じる可能性がある。

などの意見があげられた。

その後、2 か所に分かれてグループ対抗でディベートを行った。意見を述べる視点は、① YMI と YMCA は「完全に分離して活動すべきである」② 「YMI の目的は YMCA をサポートすることであり、YMI だけが YMCA をサポートすべきである」③ 「互いに持続可能で対等な関係を築くべきである」④ 「互いに干渉すべきではない」の 4 つの立場で分れた。誰しもが YMI と YMCA のより良い関係を望んでいたため、「完全に分離して活動すべきである」の立場に指名されたグループはとても苦勞していたが、改めて 2 つの組織の良い関係性が互いの活動や発展に必要なだということを実感した。また、海外のユースたちは私たちに比べ、自分たちのクラブやワイズや YMCA のこと、ユースの組織についてすごく良く勉強していてきちんと理解しており、それがとても印象的であった。

グループは本当に仲が良く自分のチームの発表になると身振り手振りで応援し、このセッションはとても盛り上がった。現状は国や地域によって YMI と YMCA の関係に温度差がある。しかし、YMI・YMCA 両組織の発展を願い、より良い関係を祈っていることはみんな同じだ。このセッションを通して改めて YMI や YMCA ユースのことを考え、深く学ぶことが出来た。

2014年8月2日 ユースにより国際議員へ発表された提案書

(Approved Youth Recommendations presented 2th August 2014)

以下は、ユースインターン、国際ユース代表そして各地域ユース代表たちによる会議にてユースリーダー育成向上の為、新たに IYR/AYR 業務マニュアルに追記されたものである。IYC 参加ユースの同意を得た上で、8月2日に国際議員の皆様(ICM)の前で実際に提案を行い、承認を得た項目について述べている。

1. Encourage all Areas to give their AYRs a seat and a vote on Area Council.

(全ての地域において、ユース代表への地域会議の出席及び、議決権を与えることを推奨する。)

2. Encourage YI/IYR/AYRs to develop a Youth Representative Manual to guide AYRs and leaders at the Area/Regional/District levels.

(ユースインターン/国際ユース代表/エリア地域ユース代表は、エリア代表、その他エリア/地区/部のリーダーへの手引きとして、ユース代表マニュアルの作成を推奨する。)



3. Encourage Area/Regional/District leaders to consult with their Youth Representatives in the selection of Youth Mentors. Youth Mentors should be willing to provide regular contact and support to their Youth Representatives.

(エリア/地区/部代表のリーダーたちは、ユースメンターが厳選したユース代表達と相談することを薦める。ユースメンターは、定期的な連絡と、支援を意欲的にユース代表に行うこと。)

4. Encourage a review of ASD YIAs and Youth Mentor roles to determine if their duties could be merged.

(地域事業主任とユースメンター、それぞれの役割を組み合わせることが可能か決めるため、それぞれの役職の見直しを図ることを推奨する。)

5. Encourage the ISD LTOD and other appropriate trainers to provide support to the Youth Area leaders through training on YMI, leadership, facilitation skills, etc. whether in person or online.

(国際事業主任及び、他の適任の講師たちは、エリアユースリーダーたちに対し、オンライン上もしくは直接会って、リーダーシップスキル、会議等の進行のためのスキル、ワイズメンズ国際協会についての知識を提供することを推奨する。)

◎個人感想～ I Y C 体験記～◎

インド・チェンナイから帰国後、参加ユースから
報告書を提出していただきました。

IYC で感じたユースの想いをここにお届けします。



『学びの場』

広島 YMCA 専門学校 職員

沖 麻実

ユースコンボケーションを一言で説明すると、ユースが話し合いを持つ場です。地域と国際の2種類あり、私はこの度初めて、国際のユースコンボケーション (IYC) に参加させて頂きました。

IYC では、世界中のユースが二年に一度一ヶ所に集まって、ディスカッションや、各国の文化紹介を行います。世界20カ国から総勢約100名のユースたちが参加していたIYCは、わたしの想像をはるかに超えた規模でした。長いようであつという間に過ぎたインドでの11日間を一言で表しますと“サバイバル”という言葉が当てはまる気がします。唇が腫れ上がる程の辛い料理、信号機・



横断歩道がない道路、車内にまで潜む大量の蚊、突如起こる停電。ネガティブな点ばかり上げているようですが、母国では体験できない環境下に置かれることで、逆に毎日が新鮮に感じられました。今回のIYC参加目的の1つとして、私はコンボケーション開催3日前に一足先に現地入りし、各地域のユースリーダーたちとユースクラブの活動状況の共有や、意見交換を行うといった貴重な機会を持つことが出来ました。地域によって差はありましたが、幅広い分野で、その地域のニーズにあった活動をユースが主体的に企画、実践していました。またユースクラブのサポート体制やクラブのまとまりがしっかりしている印象を受けました。知識と経験のなさに加え、言語の壁から全ての内容が理解できたわけではありません。実際とても悔しい想いをした場面も幾度かありました。しかしここでの経験は今後の自分にプラスになると思っています。コンボケーションでは、個人のレベルにあった学びと挑戦の場があり、自らが主体となることを自然と身に付けることができます。主体とは、「自ら学び、考え、創造すること」です。そういった意味でコンボケーションは“最高の学びの場”であるとIYCを通じて改めて思いました。常にエネルギッシュな参加者ユースたちには、圧倒されていたものの、気が付けば彼らと一緒に熱く語っている自分がいました。“IYCでの素晴らしい体験を多く人に共有したい” “もっと多くのユースに体験して欲しい”というのが私たち参加者全員の願いです。コンボケーションへの参加もある意味“挑戦”ではないでしょうか。一步踏み出す勇氣を持ってみるだけで、目の前に違った景色が広がっていることに気が付きます。私は今回のインドを含め、地域と国際のコンボケーションを体験させて頂きましたが、参加前と後の自身の変化で感じていることは、やはり考え方の幅がとても広がったことだと思います。これもパワフルなユースたちとの交流から受けた影響でしょう。今後は、私たちがユースにそんないい影響を与えられる側に立てればと思っています。短い期間でしたが、辛いことも楽しいことも共に分かち合うことができた仲間たちはかけがえのない存在ですし、この貴重な繋がりはこれからも大切にしていきたいです。日頃よりユース活動にご理解頂き、常に親身になってサポートをしてくださるワイズの皆様、YMCAスタッフの皆様、またAYRの活動を支えてくれているユースの仲間たちに心より感謝しております。ありがとうございました。

『 MY LAST IYC!! 』

ワイズ・ユースクラブ姫路—Y3

山田 麻里

今回の IYC は、私にとって 4 回目のユースコンボケーションになりました。国際大会は 2006 年の釜山以来で、不安な面もありましたが、新たな出会いと再会に心を弾ませていました。今回の会場となったインドは、毎日が日本の真夏日という感じで、じっとしていても汗が滴り落ちるような天候でした。普段から運動不足の私には過酷な環境でしたが、常に楽しい気持ちの方が勝ち疲れを忘れるような充実した毎日を過ごすことができました。



私は、ユースコンボケーション 4 回目の課題の 1 つとして、1 度目の IYC で全く歯が立たなかったディスカッションやセッションに積極的に参加し、少しでも多くの内容を理解することを目標にしていました。セッションでは、いくつかのホームグループに分かれて、与えられた題目について話し合いました。グループセッションでは内容は理解できたのに、自分の意見を上手く英語にして伝えられなかったり、ニュアンスがわからず理解できていなかったりと、落ち込む瞬間が多々ありました。英語力もさながら、YMCA やワイズについての知識を持っていることも大切なのだと改めて実感しました。他国のユースたちは自分の意見をしっかり持って主張しているのを見ると英語力だけではない、世界の問題やボランティアについての自分の知識が足りない事も痛感させられました。この経験は、今後や、来年京都 AYC まで、自分がどう過ごしていくのか問題提起をしてくれたような気がします。言葉ではなく、行動を大切にしようと思いました。

IYC の最大の魅力といえば様々な国々のユースとの交流ではないかと思います。今回 28 カ国のユースとの出会いがありました。1 度にこんなたくさん人と出会い、共同生活を送ることは、他では味わえないものだと思います。そこで世界が近いことを知り、今まではニュースなどで見る遠くの国だったのが、友達の住んでいる場所が変わります。SNS やネットで簡単に繋がることのできる世の中ですが、こうして顔を合わせて交流することはとても大切なことだと感じました。こうした個々の繋がりが、本当の平和を生み出すのではないかと。世界中に私の事を知っている人たちがいるという事実は、素敵すぎる事だなと感じます。

今回、日本のユースたちともたくさん交流しました。18 歳の頃から歯科という狭い世界で生きてきた私にとっては、様々なバックグラウンドを持つ日本のユースたちと語り合う機会が持てるのは、大変貴重で、良い刺激になりました。今後もこの出会いを大切にしていきたいです。

ユースコンボケーションに参加するたびに、毎回違う、多くの学びがあります。その経験は、私を少し積極的にしてくれたり、考え方を広げてくれたりします。今後は、たくさんのユースにこの経験を伝え、機会があれば参加してもらいたいと思います。

このような貴重な機会と、たくさんの宝物を与えて下さったワイズメンズクラブの皆様、並びにメントークラブの姫路グローバルワイズメンズクラブの皆様、たくさんのご支援とサポートに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

『置かれた場所で咲きなさい』

広島女学院大学 3年

二之方良枝

今回の IYC は私にとって、人生で二度目のインド滞在でした。一度目は大学 2 年生を目前にした 3 月、授業の一環でラクナウでの 10 日間。ラクナウはチェンナイよりも「田舎」で滞在中は何度日本に帰りたい、と思ったか数えきれません。しかし帰国後、なぜかその空気が忘れられず、私の中でいつしかインドが「一番帰りたい国」になっていました。そんな中で、このインドで行われる IYC のお話。「世界中のユースが集まる」「私たちユースが担う未来の話をしよう。」全てが魅力的でした。



この IYC は終わってみると私にとって、大きな「飛躍」でした。自分自身、自分の成長に驚くことすらありました。そのひとつは、人前で発言すること。最初はたった 20 人のグループの前に立つことすら、本当に怖くて手が震えました。しかし 8 月 6 日、何人かのユースに「今日がヒロシマに原爆が落とされた日だって知ってる？」と聞くと誰も知らず、ヒロシマについて思いの強い私はいつの間にか「ヒロシマについてみんなに知ってほしいから、1 分だけみんなで黙祷する時間が欲しい。私がみんなの前で説明するから！」とお願いしていました。するとなんと、土曜日の朝の礼拝の時間を日本チームで 15 分、話して欲しいとのこと。たった 20 人の前で 2 分話すのが怖くて仕方なかったのにいきなり 100 人のユースの前で 15 分も！でも、その依頼を聞いたとき私の中には怖さではなく、みんなに話ができる！という喜びだけで、そのことに気づいたとき私は自分自身の成長に自分で驚き、素直に嬉しかったのです。

もうひとつ、私自身成長したと感じたのは、他の人の活躍を素直に尊敬して喜べるようになったことです。IYC に行く前の私はどこか他人の活躍をうらやましく思うことがあり、実際 IYC 参加当初、英語もネイティブみたいに喋れないし...と卑屈になることもありました。しかし、IYC を通してユースと関わることで、みんなの活躍を素直に尊敬して自分も頑張ろう！という糧にすることができるようになりました。なぜならそれは、みんなが私のことも認めてくれて、素直に喜んでくれたからでした。20 人のグループの前に 2 分話すとき、正直緊張で英語はたくさん間違っていたけれど、みんな「よく頑張った、すごかった」って言って、ハグしてくれました。そんなみんなの暖かさに触れ、心の重荷が降り私もちゃんと素直に他の人を認めて一緒に喜べばいいんだと、それがお互いのためなのだと感じたのです。

私の将来の夢はインドで社会起業することです。どんなことをしたいかも決まっています。今回の IYC での世界中のユースとの出会いや関わりがこの夢を決意に変え、情熱をさらに燃やしてくれました。彼らの行動力、発言力、情熱は本当に圧巻でした。「負けてはいられない。」彼らと過ごす 1 日 1 日、彼らと交わす 1 言 1 言が私を奮い立たせたのです。

Bloom where God has planted you. 「置かれた場所で咲きなさい。」今回出会った仲間たちは、もしかしたら、二度と会うことがないかもしれませんが、世界中のどこにしようとも、私たちがこの IYC で築いた絆は壊れることはなく、世界中のどこにしようとも、この IYC で得た経験や思い出は常

に私たちの糧となります。少なくとも私は、ここで出会った仲間が世界中のそれぞれが置かれた場所で咲いている、と思うことが、自分の力となっています。そして、他の仲間たちも同じように感じているように思うのです。距離は離れていても、いつもお互いが思い合い、それぞれの力に、勇気になっていると感じます。IYCの期間中に直接関わる中だけでなく、終わった後もずっと続いていく彼らとの出会いに、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

まだまだ世界では差別や貧困、紛争や飢餓など課題が絶えません。そのために私に出来ることは本当に小さいことです。しかし、常に仲間が世界のあちこちで咲いていることを信じて、私も自分の置かれた場所で精一杯出来ることをやっていきたいと思います。

最後になりましたが、この素晴らしい出会いと彼らとのかけがえのない時間、経験を与えてくださったワイズの皆様に、心から感謝申し上げます。この出会いと経験を生かし、未来を担うユースの一人として自覚を持って行動していきたいと思います。本当にありがとうございました。

『私だけの I Y C』

大阪西クラブ コメット

吉村 尚馬



今回の I Y C、他の参加者はどのような心で臨んだのでしょうか。他国との交流を深めるため、自分の視野を広げるため、世界について考えるため、他にもたくさんあると思います。そして、I Y Cはそのどれをも満たしてくれたはずです。グループに分かれてディスカッションをするときは、様々な人の意見を聞くことができました。その議題も世界について考えるものもあり、また各国特有の意見、気候や経済状況を踏まえた上で

のもの、も聞くことができたとします。きっとそれぞれが明確な目標を持ち、それを達成して自分たちの国に帰って行ったに違いないでしょう。そして自分たちの国を盛り上げるために自分たちの能力を活かして自分たちのためだけでなくいろいろな人のために今までよりよりグローバルに行動することを I Y Cは可能にしたはずです。

そんな中私は何を学んで帰ってきたのかというと、世界とか、外国とか、そんな大それたものではなく、ただただ自分のことばかりでした。今回知り合った人たちと一緒に何かをしようとか、あの国では今こんなにも大変なことが起きていてどうにかしないといけないとか、そんな大きなことではありません。今自分に何が足りていないのか、何ができないのか、何を知らないのか、そして何をしたいのか。私が I Y Cから学んだことはそのようなことだけなのです。

たとえば I Y Cのオープニングセレモニーのときに韓国人が自分の国旗の行進のときに拍手をしたことを、不躰にも礼節をわきまえてないと思っていましたが、他の日本人から愛国心故にということを知りかされて、なるほど、と納得しました。

日本人だけで平和について話し合う時、次々と自分の意見と解釈を述べていく彼らを見て、私は日本について何も知らないということ、無関心であったことを学びました。

グループでディスカッションをするときに自分一人だけ話についていくことができなくて、いかに自分に語学力がないのか、どれだけ英語が必要なのかわかりました。

これは普通に I Y Cで得られることではありません。なぜなら I Y Cに参加する人は世界を見ているからです。世界には何が必要なのか、ということです。それに比べて私は私自身というとてもちっぽけな存在を実感しました。自分に何が必要なのか、この I Y Cでずっと考えていました。

世界からするとちっぽけですし、大きな結果とは言えないと思います。しかし、私からすると得たものはとても大きかったと思います。

これからしたいことはたくさんあります。まだ具体的に整理がついていないので当面は自分の気持ちをまとめることを目標にしていこうと思います。

最後に、このような経験をさせて頂くために快く私を送り出してくださったワイズメンズの皆様にはこの場を借りて感謝の気持ちを表したいと思います。ありがとうございました。